

平成 29 年度千葉県水産振興審議会 栽培漁業・資源管理部会
議事概要

- 1 日 時 平成 30 年 2 月 2 日（金）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで
- 2 場 所 フジモト第一生命ビルディング 9 階会議室
- 3 出席委員 委員 10 名中 9 名出席
柴田委員、山崎委員、小野委員、滝口委員、佐藤委員、石井委員、
坂本委員、高梨委員、和田委員
- 4 概 要

（1）部会長及び部会長代理の選出について

部会長の互選の方法について、委員から推薦が適当であるとの意見があり、山崎委員が推薦され選任された。部会長代理は、部会長から佐藤委員が指名された。

（2）水産動物の種苗の生産、放流及びその育成に関する平成 30 年度計画について

関連がある報告事項（3）と一括して、資料 2 及び資料 3 により漁業資源課、水産総合研究センター（以下「水総研」という。）及び公益財団法人千葉県水産振興公社（以下「水産振興公社」という。）から説明があり、計画について原案どおり承認された。

（3）水産動物の種苗の生産、放流及びその育成に関する平成 29 年度実績について

漁業資源課から協議事項（2）と一括して説明が行われた。

【質疑応答等】

委 員： アサリの網袋試験について、試験の途中経過と成果の見込みはどうか？

今年度はマダイの種苗生産は 100 万尾を達成したが、疾病等の対策を行ったのか？

水 総 研： 冬季に減耗するアサリ天然発生稚貝を有効に活用するために、稚貝を網袋に収容し、干潟域での試験と併せて養殖施設に垂下しての試験を行っている。11 月から試験を始め 6 月くらいまで追跡調査を行う予定であり、試験区ではへい死はあまり見られていないが、天然海域の稚貝は減少している。

マダイについては昨年度は、薬品の使用ができず疾病が発生し生産量が減少したが、今年度は、薬品使用時と同程度の効果がある手法を開発し、計画どおりの生産ができた。

委 員： 平成 29 年度実績において、放流種苗の大きさは 30mm となっている要因は何か？

水産振興公社： 出荷先との都合が合わず、出荷時期の遅れによるものである。

(4) 新規栽培漁業対象魚種に関する研究状況について

資料4により水総研から説明があり、委員からトラフグの移動分散について興味深い調査結果であるとの意見があった。

(5) (公財) 千葉県水産振興公社が実施する栽培漁業関連事業について

資料5により公社から説明が行われた。

(6) 資源管理型漁業の実施状況について

資料6により漁業資源課及び水総研から説明が行われた。

【質疑応答等】

委員：キンメダイの移動、産卵場等については、様々な見解がある。資源診断、資源管理方策等は他の要因も考慮し分析してもらいたい。また、大陸棚のキンメダイの資源を調べてもらいたい。

水総研：試験船により小型魚の標識放流を行い、資源加入状況を調査している。

漁業資源課：千葉県は、他県と連携しキンメダイの資源管理の取組を進めている。

獲り控えることと小型魚の再放流サイズをあげることは同等の効果があるため、今後は、経営面も考慮し取り組んでいきたい。

委員：クロアワビの平成28年資源評価は、資源水準は高位、動向は横ばいである。現状以上の資源管理は必要ないと考えているか？

漁業資源課：限定的な評価方法で、高位、増加となっているが、現在の漁獲量は、1960～70年代の漁獲量と比較すれば多くはなく、引き続き増やす努力は必要だと考える。

委員：スズキ、マコガレイについては、東京湾の重要資源であるため、地区に分けて資源評価をしてもらいたい。

水総研：データの入手先を増やすことによって地域ごとに評価できるよう検討したい。

(7) 漁場整備に関する事業実施状況について

資料7により漁業資源課から説明が行われた。

(8) その他

参考資料4により漁業資源課から「千葉県農林水産振興計画」について説明が行われた。